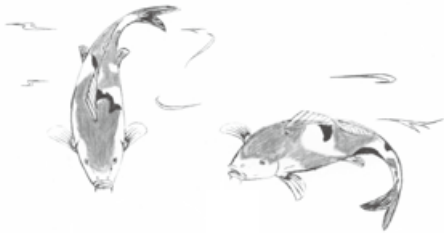

慈 恵



平成30年 No.62



春

宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

賞鑑

金
剛
焰

昭和甲辰
初秋 天啓

まさに鉄をも焼きつくす炎のように、
内から燃え上がる気力と、巖^{いわお}をも動かす
ような禅定力とが、ほとばしる。先生に
は、そんな菩提心が横溢していた。

昭和甲辰は、埼玉・越生に移られて二
年、八十二歳の秋である。このころ以後
が、その面目躍如たるものと言えよう。

横山天啓

書道の本源を求めて、八十余年の生涯を書
と禅に捧げた横山天啓翁（雪堂、昭和四十
一年八十四歳で死去）は、書における墨気
と境界を重んじ、筆禅道を提唱、実践した。
世に媚びることなく清貧の中で道を求め
た翁の姿は「書仙」の趣があった。

「禅画報」より

悪僧を放逐しない

龍門寺で大結制の時、一人の僧が来て掛錫かしゃくを願った。ところが、それより前に掛錫していた僧の中に、この僧の行状をよく知っている者がいて知客しきゃくに告げていった。

「あの男は盗癖があつて、どこの僧堂へ行つても追い出されている札付き者です。これは私だけでなく、多くの者が知つているところです。もし悪い癖を起こされて、和合が乱れては一大事と存じます」

知客はこれを聞くと、盤珪に報告して裁断を仰いだ。盤珪は、

「このたびの結制は、第一にそのような者のために設けられたのじゃ。その男が悪心を改めて善心になるならば、それこそ大なる功德で、身どもの本意じゃ」

といつて掛錫を許した。

※結制：修行期に入ること。

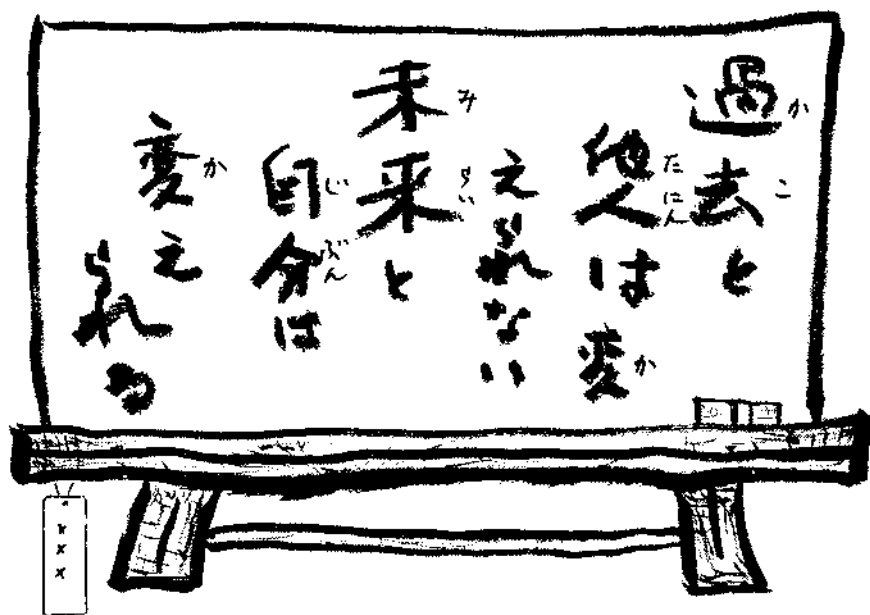
※知客：僧堂全体の取りしまり役。

「禅門逸話集成」より

盤珪永琢ばんけいようたく（二六二一～一六九三）

臨済宗。播磨の人。赤穂随鷗寺の雲甫について出家。諸方歴参のち二十六歳で大悟、不生禅を唱導した。美濃玉龍庵、赤穂興福寺などに住した。慶安四年、長崎に道者超元が来朝すると、行つてその指導を受けた。のち伊予に遍照庵を創建、浜田の龍門寺を再興し、妙心寺に出世した。

揭示板





私の寝ぐら

三鷹市 藤井 ガビ
代筆 飼い主 (79)

モクとトムの

おもいで！

府中市 小勝 澄空そら（7）

朝ばあちゃんが、デイケア（リハビリ施設）に行く日は、洋だんすの一番上に横になって見送ります。

の網戸の近くでは、風が
っぱい入って来て、「うー
ん、なあんて気持ちいいだ
と、大きなあくびをして、
ぎゅうっと体をのびします。
寒くなると、押し入れの
布団の間にはさまって、い
っぱい、いっぱい夢を見ま
す。
お仕事からの帰りに、寄

レに行きます。その音で目をさますと、私は大きな大きな紙袋の中で、寝てました。暗い中ではあちゃんが戻つて来ると、袋の中にいる私に声をかけます。

「いいところ見つけたね」つて。

もう二時間もすれば朝かな。もう一眠りします。はい。

も
ク
と
ト
ム
の
お
も
い
て

カネは、ユビを引ぬきかッにました。
トムとモクは、きぶがわいでトムは、
18さいまでいきました。
モクは、マダガ28にち16さいでなくタリま
した。トムは、一カ所しかDさいのときで、

なくなりました。だからあまりおぼえて
りませぬ。モウは、さんぽが、だいすきでした。

さんばのおわりころは、うねしやうに
けまつてきました。カブトムシがだいすきで
した。そのときカブがみつてくねきました。

おでまがえしてくれました。

ミツのけは、とってもかわいかったです。

ちやうどおなじやうに、いふまでもないやう
たくさんのおちいでもいふべ
くれて、ありがとう！

ここには2LDKの、あらゆる所に私が昼寝の場所が、いっぱいあります。

やんが、
「ガビ、
今日も一緒であり
がとう」

ダイニングの戸棚の上、

つて毎日々言つてくれ

ダンボールでともちゃんが

と。
ばあちゃんの枕の横

作ってくれた。タンホール

によこたわるとはあちや

の新聞紙は、買ひ物に出た

だ。あそびのおなじりも上

ばあちゃん、留守番にち

めて、ガビも寝ます。

ようどいい。ベランダより

夜中、
ばあちゃん
はトイ

「あつ！飼い主は藤井隆子
といひます」

起きたら御目にかかりまし
よう。

小さな体で必死に助けを求めたガビは、今は、飼主の心のより所となつて何もかも一緒の日々で私がガビに仕えている気分です。

種が違つても、共に生きることの尊さを、何と私
が、ガビから日々教わつて
ます。



高橋りんちゃん(7カ月♀)



吉田ぐりちゃん(9才♀)

うさぎとお参り



原エリーちゃん(11才♀)



岸タバサちゃん(12才♀)

ごくろうさま!